

新 着 資 料 の 紹 介

資 料 室

1) Д. И. Щербаков 編 (1961) : 「Сырьевые ресурсы камчатской области (カムチャツカ州の地下資源)」, ソ連科学アカデミー出版所, 184 p., 26.5 cm × 17.5 cm (露文)

目 次

編者序文

Д. Л. Мозесон, И. С. Гурвич : Камチャツカ地方の研究, p. 5 ~ 17, 文献 158

第 1 部 鉱物資源

Г. М. Власов : Камチャツカ州の地質構造の一般的特徴と今後の研究課題, p. 18 ~ 26

В. А. Ярмолюк : Камチャツカ州の地下資源とその工業利用への道, p. 27 ~ 34

В. А. Титов : コリャーク高原の地質構造の一般的特徴と地下資源, 今後の研究課題, p. 35 ~ 42

Л. И. Тихомиров, Э. Н. Эрлих : Камチャツカ州の鉱床分布上の諸特徴, p. 43 ~ 51, 図 1

М. А. Сухарев : 中央カムチャツカ山脈クラスノガラー銅モリブデン鉱床と今後の鉱床探査の展望, p. 52 ~ 58

В. В. Крылов : Камチャツカ州における油田調査・探査組織と作業実施法, p. 59 ~ 63

Н. М. Маркин : Камチャツカ半島西岸の石油埋蔵性の展望, p. 64 ~ 74

И. Б. Плешакова : Камチャツカ半島東岸の石油埋蔵性の展望, p. 75 ~ 85, 表 4

О. Н. Толстихин : Камチャツカ半島南部の石油埋蔵性の展望, p. 86 ~ 90

Д. Е. Саватеев : Камチャツカ州の建築用資源, p. 91 ~ 97

М. И. Нейштадт : Камチャツカ州における泥炭の科学的, 経済的諸問題, p. 98 ~ 101

А. С. Оленин : Камチャツカ州の泥炭フォンド, その研究状況, 有効利用の展望, p. 102 ~ 108

Г. С. Горшков : Камチャツカ半島の火山の研究, p. 109 ~ 114

Н. Д. Садовский : Камチャツカ州の地下水, p. 115 ~ 122

А. Е. Святловский : Камチャツカ州水溶性ガス田の地質学的区分とペトロパプロフスク発電所の見通し, p. 123 ~ 126, 図 1

第 2 部 水エネルギー資源と沿岸動力論

Б. К. Козлов : Камチャツカ州地熱エネルギーの有効利用, p. 127 ~ 137, 図 7, 表 2

А. Т. Владимиров : 水力工学的施設と工業立地のためのカムチャツカ西部海岸の動力学的特徴, p. 138 ~ 142

第 3 部 農林経済資源

Б. П. Колесников : Камチャツカ州植物界の研究の現状と今後の課題, p. 143 ~ 159, 図 1, 文献 63

Л. А. Портенко : Камチャツカ州の陸上動物群の研究の現状と今後の課題, p. 160 ~ 163

М. И. Грушин : Камチャツカ州の森林資源, p. 164 ~ 169, 表 2

Н. А. Гарин : Камチャツカ州の飼料産地とその改良法, p. 170 ~ 175, 表 3

В. Н. Андреев : Камチャツカ州における養鹿場の合理的利用, p. 176 ~ 182

2) А. С. Великий 編 (1970) : 「Геохимия и геология некоторых рудных месторождений (諸鉱床の地球化学と地質学)」, Наука出版所, 200 p., 21.5 cm × 19 cm (露文)

目 次

В. В. Иванов : ソ連における地球化学的研究状況と鉱床地球化学の今後の研究課題, p. 6 ~ 36

Н. В. Нечелюстов : 中央アジアのタングステン-スカルン 鉱床における 鉱化段階について, p. 37 ~ 54, 図 1, 表 3, 文献 34

О. В. Вершковая ほか 2 名 : ニジュネーアンガラ河流域閃亜鉛鉱-方鉛鉱鉱体の分散元素, p. 55

～75, 図1, 表2, 文献64

Г. Н. Нечелюстов: ウズベク共和国西部のウガート灰重石スカルン鉱床におけるビスマス鉱化現象について, p. 76～89, 図3, 表9, 文献6

А. А. Гармаш ほか2名: ルードスイ・アルタイ地方ペロウソフ鉱床グルボチャン鉱体の鉱石の鉱物学的・地球化学的特徴と初成分散ハロー, p. 90～124, 図12, 表10, 文献11

В. В. Иванов, О. Е. Юшко-Захарова: 親銅元素の地球化学的歴史について, p. 125～132, 文献1

Э. Ф. Минцер, Л. В. Никольская: 東部カラマザール地方産火成岩中のビスマス, p. 133～140, 表4, 文献13

В. В. Иванов: 天然酸素酸塩と天然酸化物中の類質同像混合インジウムについて, p. 141～153, 表10, 文献22

Н. В. Нечелюстов ほか6名: スカルン鉱床産黄銅鉱-輝水鉛鉱鉱石中の微量元素研究法について, p. 154～174, 図4, 表7, 文献20

Г. М. Мейтув, В. В. Иванов: 東ザバイカル地方における数種の金属鉱床の広域地質学的・地球化学的分布規則性, p. 175～196, 図7, 文献17

3) М. Ф. Двали, М. Д. Белонин (1965): 「Перспективы поисков нефти и газа на больших глубинах на территории СССР (ソ連における大深度石油・天然ガス探査の展望)」, ネードラ出版所, 138 p., 図40, 表24, 付録2, 文献218 (露文)

目次

第1章 大深度における岩石の広域変成

第2章 大深度における岩石の貯油性について

第3章 3,500m以深でのトラップ

第4章 大深度における石油の形式について

第5章 大深度における温度について

第6章 堆積層柱状断面による堆積盆地区分, その記載オーダー, 石油・天然ガス埋蔵性の評価

第7章 ソ連領内の堆積盆地

A. 卓状地性堆積盆地

B. 前縁沈降盆地と山間沈降盆地

第8章 予測鉱量の一般的評価

第9章 各種堆積盆地の生産性指数と予測鉱量の算定

付録

4) И. Г. Магакьян (1969): 「Типы рудных провинций и рудных Формаций СССР (ソ連の鉱床生成区と鉱石フォーメーションの形式)」, ネードラ出版所, 224 p., 図42, 表12, 文献65, 22 cm × 15 cm (露文)

目次

鉱床生成区と鉱石フォーメーションの区分原則と分類原則

ソ連領内の鉱床分布帯区分, 鉱床生成区の記載

カフカスーザカフカス型の鉱床生成区

カフカスーザカフカス鉱床生成区

カムチャツカーコリヤーク・クリル列島一樺太鉱床生成区

ウラル鉱床生成区とタイムイル鉱床生成区

ザバイカル型の鉱床生成区

ザバイカル鉱床生成区

極東鉱床生成区

北東辺区鉱床生成区
中部カザフ鉱床生成区
中央アジア型の鉱床生成区
中央アジア鉱床生成区
北東カザフ鉱床生成区

アルタイ-サヤン鉱床生成原・ルードヌィーアルタイ鉱床生成原・カルバ鉱床生成原
ロシア卓状地・シベリア卓状地先カンブリア紀基盤凸出帯
ロシア卓状地鉱床生成区とシベリア卓状地鉱床生成区

鉱床生成区の形式、その鉱化作用の特徴、鉱石フォーメーションの記載

鉱石フォーメーション系列、堆積・マグマ作用・変成作用の諸過程および地質構造発展の諸段階と関連した地質学的位置

結 論

5) Г. П. Барсанов ら編 (1969) : 「Новые анны о минералах СССР (ソ連産鉱物の新データ)」、フェルスマン名称鉱物博物館報告, 第19集, 264 p., 26 cm × 16.5 cm (露文)

目 次

Б. Е. Боруцкий, Е. И. Семенов : イリマウサク・アルカリ山塊産の長石類, p. 3 ~ 11, 図 6, 表 3, 文献17

К. С. Ершова ほか 3 名 : ソーダ燐灰ウラン石の性質に関する新データ, p. 12 ~ 20, 図 3, 表 6, 文献 8

Б. Ф. Зленко ほか 3 名 : ルードヌィーアルタイ地方ゾロトゥーシャ多金属・硫化鉄鉱床産熱水性パリゴルスカイト, p. 21 ~ 31, 図 2, 表 5, 文献14

Л. Б. Зубков ほか 2 名 : 磁鉄鉱スカルンの鉱物学とベリリウム含有性について, p. 32 ~ 45, 図 4, 表 4, 文献 8

А. С. Назарова : 螢石-フェナサイト-ベルトランダイト鉱床における交代作用の特徴, p. 46 ~ 60, 図 6, 表 5, 文献 6

А. А. Попов : 天然の白雲母とパラゴナイト中のカリウムとナトリウム, p. 61 ~ 69, 図 2, 表 1, 文献22

Д. П. Сердюченко : 異常組成の雲母について, p. 70 ~ 77, 表 1, 文献24

Н. Н. Смольянинова ほか 2 名 : アクチャタウ鉱床産表成灰重石, p. 78 ~ 85, 図 4, 表 3, 文献12

Л. Г. Фельдман, Н. Б. Коноплева : 東シベリア 地方曹長石化アマゾナイト・ペグマタイト産のチタン-ニオブ-タンタライトについて, p. 86 ~ 112, 図10, 表 9, 文献52

Ю. А. Балашов : ユーディアライト中の稀土類の含有量と組成の変種, p. 113 ~ 120, 図 5, 表 1, 文献20

В. М. Бочбаров ほか 3 名 : 新鉱物— Satimolite 一含水・含塩素-アルミニウム-アルカリ 硼酸塩, p. 121 ~ 125, 図 4, 表 1

А. В. Бочко ほか 2 名 : 鉛中での人工腐蝕によるダイヤモンド結晶面 (111) 上の円盤状組織について, p. 126 ~ 130, 図 4, 文献 5

Г. В. Букин : 熱水条件下でのエピディディマイトの合成, p. 131 ~ 133, 表 2

И. А. Гаврилов : ダイアスポアの色, p. 134, 文献 1

А. А. Ганзеев ほか 2 名 : plumbobetafite —パイロクロア族の新変種, p. 135 ~ 137, 図 1, 表 1, 文献 5

С. А. Горжевская, Г. А. Сидоренко : obruchevite の問題について, p. 138 ~ 145, 図 2, 表 3, 文献 4

А. Г. Давыдченко ほか 2 名 : 南西パミール地方変成岩中の鉄-マグネシア雲母, ざくろ石, 角閃

石, p. 146 ~ 152, 図8, 文献29

B. B. Дистлер, З. Ф. Овчарова: 滑石-緑泥石質交代岩中におけるフェナサイトの共生関係, p. 153 ~ 158, 図5, 表2, 文献3

M. Д. Дорфман ほか2名: ヒビナ・アルカリ山塊中の炭酸ソーダ10水塩について, p. 159 ~ 164, 図4, 表1, 文献7

A. Ф. Ефимов ほか2名: ウラル山脈地方アルカリ交代岩中における berbankite の発見について, p. 165 ~ 169, 表2, 文献9

O. B. Карпова, P. A. Минибаев: マトカリ山塊チタン磁鉄鉱産マグヘマイトについて, p. 170 ~ 173, 図4, 文献11

C. И. Лебедева: 鉱石鉱物のタイポモルフ性の定量的決定への微硬度法の利用, p. 174 ~ 178, 図3, 表2, 文献11

Г. П. Луговской, Т. И. Столярова: 交代変質花崗岩産の struverite, p. 179 ~ 183, 図1, 表1, 文献13

H. K. Маршукова: 錫鉱床における緑柱石の組成の変化について, p. 184 ~ 188, 表2, 文献5

H. K. Маршукова, A. B. Павловский: 稀有金属-錫複合鉱床産デーナライトの特徴, p. 189 ~ 191, 表1, 文献3

A. C. Назарова, В. Г. Хитров: フェナサイトとベルトランダイト中の硼素含有量について, p. 192 ~ 196, 図1, 表2, 文献8

И. В. Островская: Sakhite と Kharkerite の結晶構造について, p. 197 ~ 201, 表1, 文献13

И. В. Островская: 新硼酸塩鉱物—satimolite の構造形態について, p. 202 ~ 205, 図2, 表1, 文献3

И. В. Островская, И. Б. Никитина: preobrazhenskite の構造形態について, p. 206 ~ 209, 図2, 表2, 文献16

M. C. Сахарова, Н. Н. Кривичкая: 鉱床生成条件の示徴としての硫砒鉄鉱について, p. 210 ~ 217, 図7, 表2, 文献12

O. Л. Свешникова, A. Д. Пакуев: 中部カフカス地方ティルヌィアウス鉄鉱床産含マンガン・ベルチエライト, p. 218 ~ 223, 図1, 表4, 文献13

H. E. Сергеева: 電子顕微鏡観察データによる鉄尖晶石の形態的特徴と不均質性, p. 224 ~ 235, 図7, 文献13

M. B. Чистякова, M. E. Казакова: カザフ共和国産弗化セリウム石, p. 236 ~ 238, 図1, 表3, 文献6

B. T. Шацкая, P. Г. Жданов: リューコファナイトの新データ, p. 239 ~ 241, 図2, 表1, 文献2

Л. Д. Юрьев: プリアゾフ地方のモンヅナイト産磁鉄鉱のミルメカイト組織, p. 241 ~ 248, 図6, 文献7

T. A. Яковлевская: Kupletskite の諸性質について, p. 249 ~ 250, 図2, 表1, 文献4

H. A. Солодов: ミンチ状緑柱石の生成条件について, p. 251 ~ 256, 図2, 文献6

6) В. Я. Авровら編 (1963): 「Прогноз газоносности СССР (ソ連における天然ガス埋蔵性の予測)», Гостоптехиздат出版, 176 p., 表29, 文献68, 27 cm × 17.5 cm (露文)

目次

第1部 生産, 埋蔵量, 探査状況

第1章 ソ連の天然ガス生産量

第2章 ソ連の天然ガス埋蔵量

第3章 ソ連の石油・天然ガスの調査・探査状況

第4章 資本主義諸国の天然ガス生産量と埋蔵量

新 着 資 料 の 紹 介 (資 料 室)

第 2 部 ソ連における天然ガス埋蔵性の予測

- 第 5 章 石油・天然ガスの埋蔵性からみた堆積累層の概説
- 第 6 章 石油・天然ガス田の区分原則
- 第 7 章 石油・天然ガス鉱体分布の規則性に関する概念の発展
- 第 8 章 石油・天然ガス予想鉱量の計算法の基礎
- 第 9 章 ソ連の既存および予想石油・天然ガス田における天然ガス予想鉱量
- 第 10 章 ソ連の石油・天然ガス予測図
- 付録 ソ連石油・天然ガス埋蔵性予想図

7) M. M. Иванов (1966) : 「Магнитная с'емка океанов (海洋の磁気測定)」, ナウカ出版所, 181p., 図54, 表16, 文献 121, 26 cm × 16.5 cm (本文露文, 抄録英文)

これは, ソ連最初の非磁気船「ザリャー号」で観測された世界の主な海洋における磁気分布について多面的に考察した結果の報告であり, 多くの問題が提起されている。

目 次

序 文

- 第 1 部 「ザリャー号」建造前の海洋磁気観測
 - 第 1 章 海洋の磁気研究状況について
 - 第 2 章 海洋における磁気観測法と機器
 - 第 3 章 海洋の磁気観測における偏差計算について
- 第 2 部 ソ連非磁気船「ザリャー号」と磁気測定法
 - 第 4 章 準備作業
 - 第 5 章 「ザリャー号」建造への資料集収と磁性特性の決定
 - 第 6 章 観測船「ザリャー号」と艤装
 - 第 7 章 磁気測定機器, 測定法, 測定結果の処理
 - 第 8 章 偏差
 - 第 9 章 「ザリャー号」による測定結果の実際的正確度
- 第 3 部 国際地球観測年における「ザリャー号」の磁気測定結果
 - 第 10 章 海洋磁気分布図の精度について
 - 第 11 章 大西洋・インド洋における磁場の長年変化について
 - 第 12 章 海底地質構造と海洋磁場との関係について

結 論

8) A. A. Рогштейн (1962) : 「Магматические фации ультраосновных изверженных пород толеитовой серии (ソレアイト系超塩基性火成岩のマグマ分化相)」, 科学アカデミー出版所, 44 p., 図21, 表 6, 文献 45, 26 cm × 16.5 cm (本文露文, 抄録英文)

本書は, Stillwater, Skaergaard, Rhum の各貫入岩体の鉱物共生関係とモデル化した実験のデータから複合岩体のマグマ分化の進化状況を理論的に追求した結果を述べている。

目 次

序 言

- 分化貫入岩の結晶作用
- 苦土かんらん石-透輝石-灰長石-珪酸系
- 圧力の影響
- PT ダイアグラムでの平衡関係
- PT ダイアグラムでの転移点
- 転移点 F 付近の平衡関係

転移点F付近における平衡関係の岩石学的解釈

水蒸気圧の影響

PT ダイアグラム各点に相当する岩石諸例

Dawros と Belhelvie 複合岩体産鉱物の化学分析結果

Dawros・Belhelvie 両複合貫入岩体産岩石の輝石組成と鉱物共生関係

結論 圧力とアルカリ度の役割

9) M. A. Фаворская, И. К. Волчанская, Д. И. Фрих-Хар, В. А. Баскина, А. С. Дудыкина (1965): 「Магматизм юго-восточной Камчатки и его связь с процессами тектонической активизации (南東カムチャツカのマグマ作用とその構造活化過程との関係)」, ナウカ出版社, 152 p., 図56, 表13, 文献74, 25.5cm × 16 cm (露文)

目 次

序 言

第1章 カムチャツカ地質発達史の基本的特徴

第2章 地質構造

オロハイドログラフィー概説 地質概観 地形 構造地質

第3章 岩石概説

岩石各論 造岩鉱物 副成鉱物

第4章 マグマ生成体の組成の岩石化学的特徴

南東カムチャツカ噴出岩組成の化学的特徴 南東カムチャツカ火成岩中の副成成分

第5章 新生代火山活動に伴う熱水作用と表成作用の諸特徴

N_1^{1-2} 岩石の変質 アルネイ累層下部産トポロボ湖角閃石安山岩山塊の熱水変質岩 風化作用

第6章 カムチャツカ地質発達史と岩石成因上の諸問題

結 論